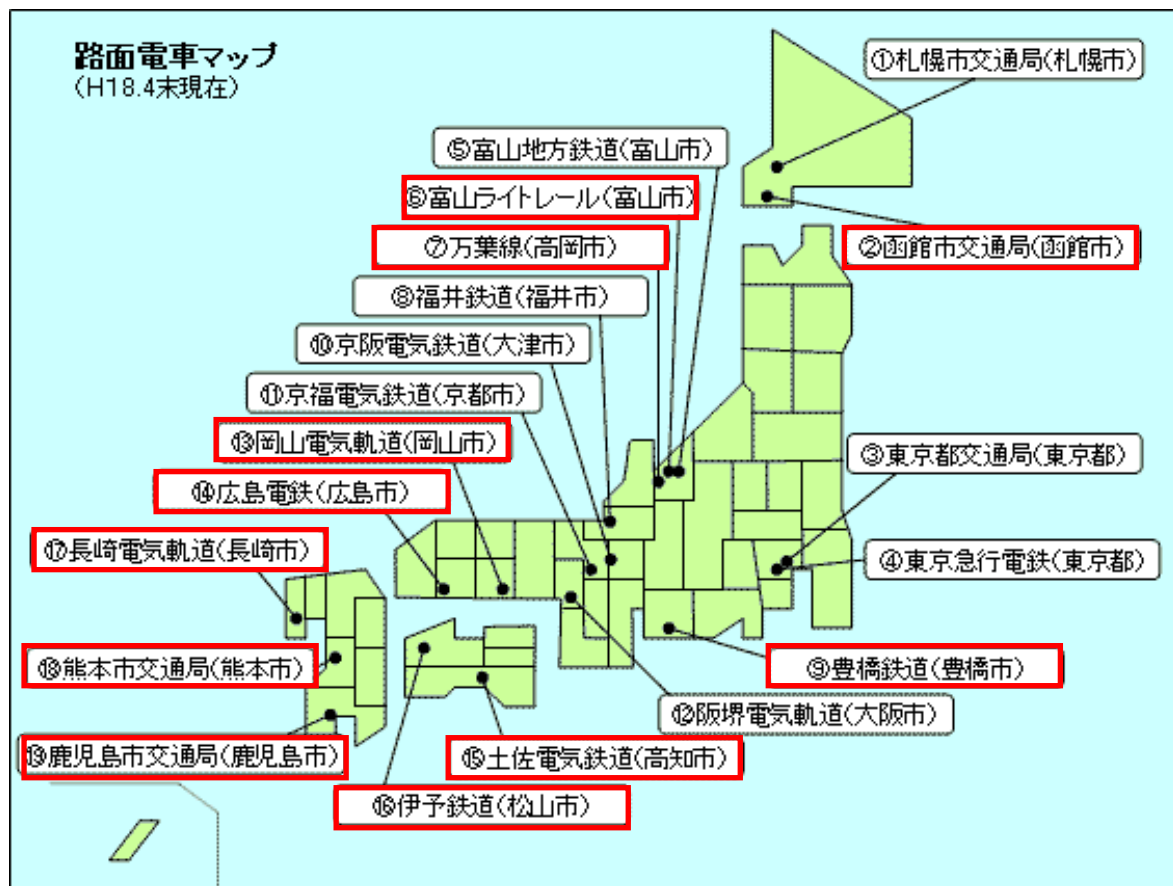


L R V 導入都市・天浜線・遠鉄線の特徴

事業者名	運営主体	摘 要
函館市交通局	函館市	市電を運営
富山ライトレール	富山ライトレール株式会社	第3セクター（富山県・富山市・企業15社）
万葉線	万葉線株式会社	第3セクター（富山県・高岡市・射水市）
豊橋鉄道市内線	豊橋鉄道株式会社	鉄道・軌道を運営
岡山電気軌道	岡山電気軌道株式会社	路面電車と路線バスを運営
広島電鉄	広島電鉄株式会社	鉄道・路面電車と路線バスを運営
伊予鉄道	伊予鉄道株式会社	鉄道・路面電車と路線バスを運営
土佐電気鉄道	土佐電気鉄道株式会社	路面電車と路線バスを運営
長崎電気軌道	長崎電気軌道株式会社	路面電車の運営
熊本市交通局	熊本市	市電・路線バスを運営
鹿児島市交通局	鹿児島市	市電・路線バスを運営
遠州鉄道西鹿島線	遠州鉄道株式会社	鉄道・路線バスを運営
天竜浜名湖鉄道	天竜浜名湖鉄道株式会社	第3セクター（静岡県・沿線市町）



L R V 導入都市一覧（赤枠）

■函館交通局（2 系統・延べ 10.9km）

1897 年（明治 30 年）に開業した馬車鉄道を起源とする軌道を引き継いだ函館水電が 1913 年に電化、その後いくつかの電気事業者の手を経て 1943 年函館市に譲渡された。二系統が朝から 19 時まで交互に 10 分間隔（両系統が重複する湯の川・十字街間は 5 分）、19 時以降は 20 分間隔（湯の川・十字街間は 10 分）で運転されている。ほかに、通勤・通学・観光客の状況により運転する臨時便（地元では「増車」と呼んでいる）もある。運賃は対キロ区間制運賃を採用している。乗車時に整理券を取り、降車時に運賃表の整理券番号に合わせて運賃を支払う。2 k m まで 200 円、4 k m まで 220 円、7 k m まで 240 円、7 k m 以上 250 円。



カラー電車

動く広告塔として企業のイメージを車体全体にデザイン。カラー電車は最低掲載期間 6 ヶ月。広告料金は 1 ヶ月 1 車両 105,000 円。なお、広告料のほかに復元費用が必要。

電停ネーミングライツ

地域のランドマークとなる電停にスポンサーとなる企業名を記載する「電停副呼称」制度を取り入れている。電停名の下に（ ）書きで企業名を記載。電停 1 ヶ所 1 年につき 735,000 円。但し 1 年単位で 3 年以上の掲載が条件となっている。



カラー電車

■富山ライトレール（1 路線・7.6km）

2006 年 2 月まで西日本旅客鉄道（JR 西日本）が運営していた鉄道路線が第三セクターの富山ライトレール株式会社に移管され路面電車(LRT)化された。同年 4 月 29 日から同社による営業が開始された。移管後は運行本数が大幅に増加し、利便性が向上したことから利用客数は平日で 2 倍、休日で 5 倍強に増加した。



平日	
富山駅北発	
5時	57
6時	35 53
7時	14 24 35 45 55
8時	05 15 25 35 45 57
9時	06 14 30 45
10時	00 15 30 45
11時	00 15 30 45
12時	00 15 30 45
13時	00 15 30 45
14時	00 15 30 45
15時	00 15 30 45
16時	00 15 30 45
17時	00 15 30 45
18時	00 15 30 45
19時	00 15 30 45
20時	00 15 45
21時	15 45
22時	15 45
23時	15

平日ダイヤ

平日	
岩瀬浜発	
5時	30
6時	00 22 39 49
7時	00 10 21 31 41 51
8時	01 11 21 31 43
9時	00 14 31 46
10時	01 16 31 46
11時	01 16 31 46
12時	01 16 31 46
13時	01 16 31 46
14時	01 16 31 46
15時	01 16 31 46
16時	01 16 31 46
17時	01 16 31 46
18時	01 16 31 46
19時	01 16 31 46
20時	16 42
21時	12 42
22時	12 42
23時	

平日ダイヤ

フィーダーバス



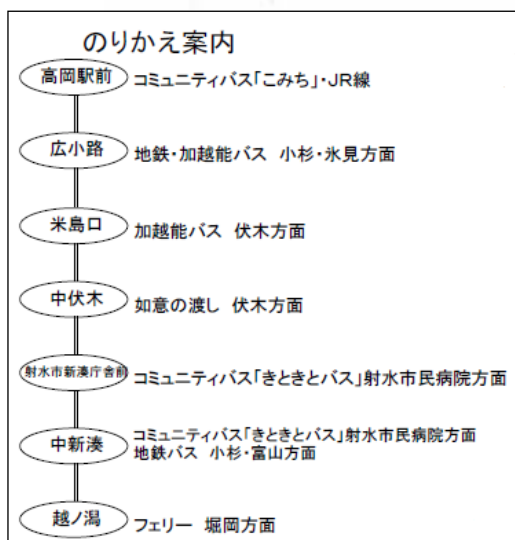
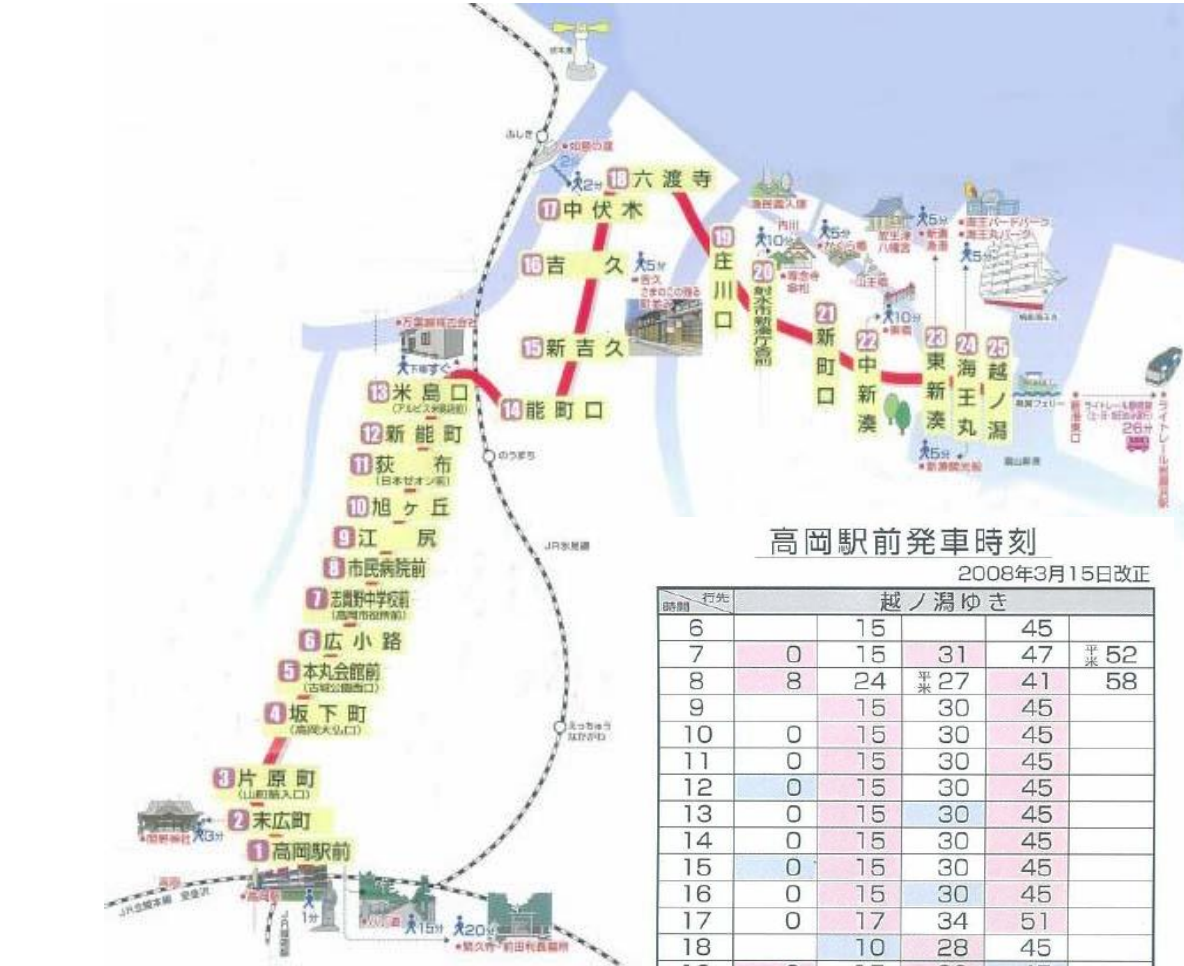
ライトレールと接続するフィーダーバスは「四方・草島ルート」と「岩瀬浜・大広田・浜黒崎ルート」の 2 路線が運行されている。岩瀬浜ルート(上図緑のルート)では、基点の岩瀬浜電停ホームからそのままバスに乗降できる。時刻表にはLRTとの乗り継ぎ時間も記載されている。運賃はLRT・バスとも一律各 200 円。



富山ライトレール岩瀬浜駅

■万葉線（1路線・12.8km）

1948年に富山地方鉄道伏木線 7.3kmが開通したのがルーツ。万葉線は富山県高岡市と同県射水市を結ぶ高岡軌道線と新湊港線を併せた総称。平成14年4月に加越能鉄道から事業譲渡され第三セクター方式の鉄道会社「万葉線株式会社」として運行が再開された。運賃は150円～350円。



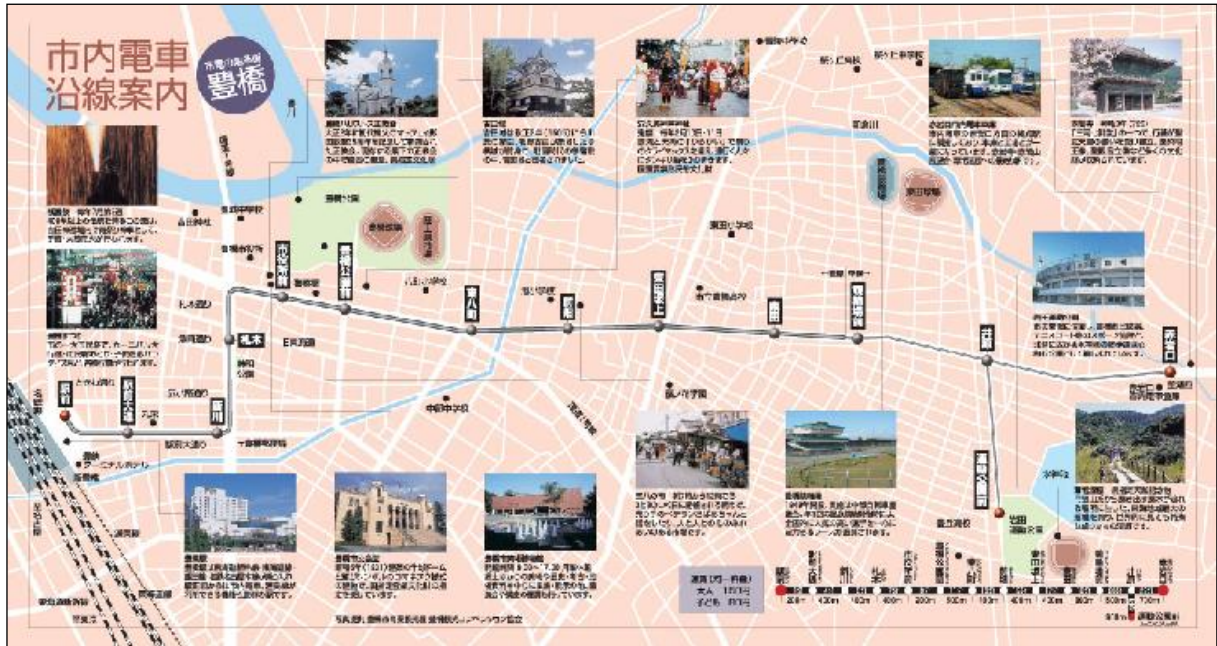
電停の7ヶ所でバス・渡し・フェリー（県営で無料）等への乗りかえを用意し利便性の向上を図っている。



万葉線越ノ湯駅

■豊橋鉄道市内線（1 路線・5.4km）

1925 年（大正 14 年）に豊橋電気軌道株式会社によって開設された。昼間は豊橋駅前電停から赤岩口行きと運動公園前行きが交互に、それぞれ 14 分間隔（駅前・井原間は 7 分間隔）で運行。朝夕には競輪場前折り返しの電車も増発され最短 5 分間隔で運行。乗降客がいなければ通過する。豊橋まつり、納涼祭り（夜店）、豊橋市民球場におけるプロ野球公式戦など、沿線でイベントが開催される時には臨時電車が増発される。運賃は 150 円均一。



1分	3分	5分	7分	9分	11分	13分	15分	17分	18分	20分	22分
駅前 大通	新川	札木	市役所前	豊橋公園前	東八町	前畑	東田坂上	東田	競輪場前	井原	赤岩口
										↓ 22分	運動公園前

運賃全線均一：大人150円 小児80円

【駅前電停／えきまえ】

平日（月～金）

土・休日▶

時	発時刻										
5	52										
6	07	22	35	44	53						
7	00	07	13	20	26	32	37	43	49	54	59
8	04	09	15	21	28	34	40	47	54		
9	07	08	15	22	29	36	43	50	57		
10	04	11	18	25	32	39	46	53			
11	00	07	14	21	28	35	42	49	56		
12	03	10	17	24	31	38	45	52	59		
13	06	13	20	27	34	41	48	55			
14	02	09	16	23	30	37	44	51	58		
15	05	12	19	26	33	40	47	54			
16	00	06	11	16	21	26	31	36	41	47	53
17	05	12	18	25	32	38	45	52	58		
18	05	11	18	24	30	37	44	51	58		
19	04	10	17	24	31	37	44	52			
20	00	08	16	24	32	40	49	58			
21	07	17	27	37	47	59					
22	11	23	35	51							
23	08	25	45								

赤字＝赤岩口行、緑字＝運動公園前行、茶字＝競輪場前行
青字＝赤岩口行（モ801号）で運行



800 形電車



豊橋駅前電停

■岡山電気軌道（2系統・延べ4.7km）

1912年（明治45年）に開業。創業時から社名を一回も変更していない。岡山駅前・東山間を走る東山線は5分毎に運行、渋滞がなければ所要時間は約15分。朝のラッシュ時は、東山付近に通学する学生や県庁などへの通勤客が多いため、西大寺町止まりの電車が3本ある（ビジネスチャトル便）。岡山駅前・清輝橋間を走る清輝線はおおむね10分毎の運転で渋滞がなければ所要時間は約12分。運賃は140円均一。



岡山駅発東山行時刻表

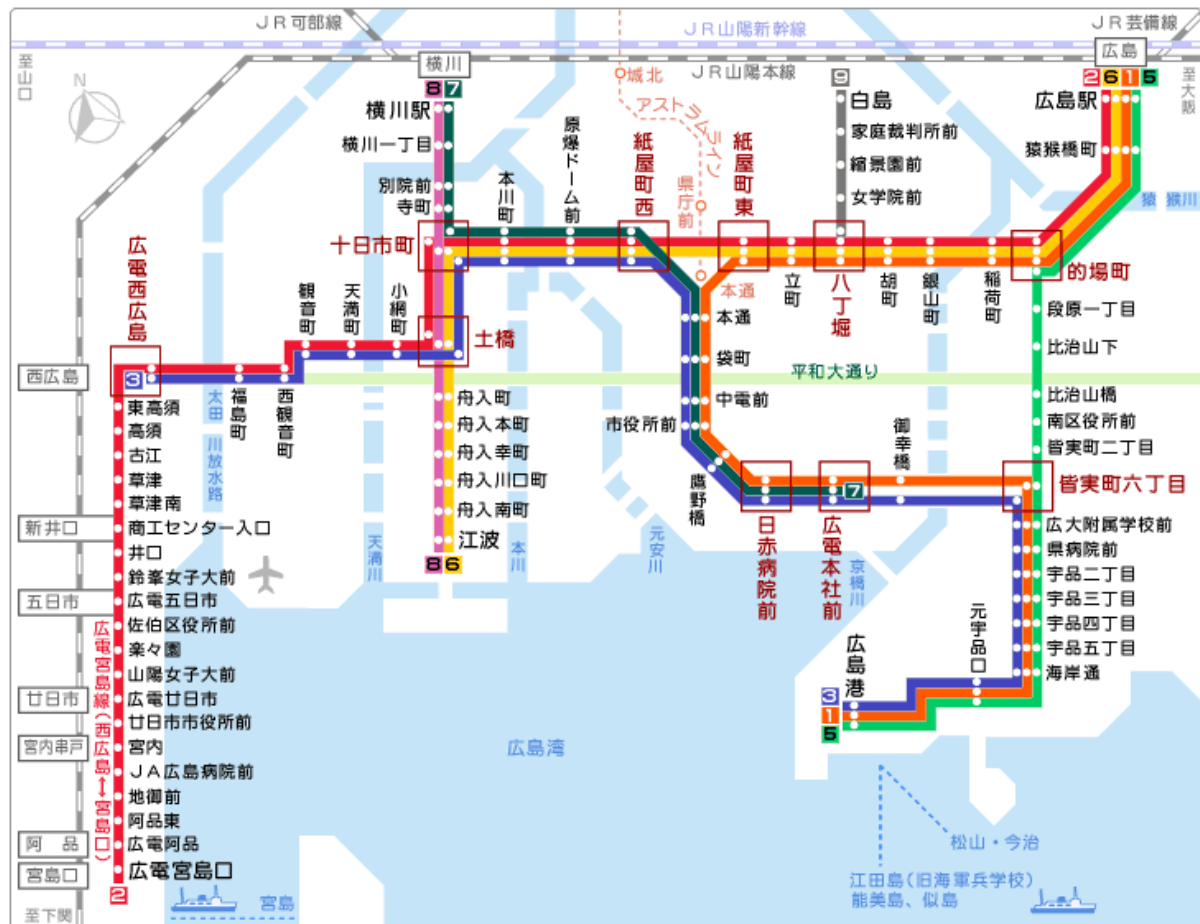
時	分(平日)														
HOUR	MINUTE(WEEKDAY)														
6	15	35	45	55											
7	05	11	17	22	27	32	36	40	43	47	50	51	55	59	
8	02	04	06	09	12	15	17	19	22	26	29	31	34	37	41
9	03	08	13	18	23	28	33	38	43	48	53	58			
10	03	08	13	18	23	28	33	38	43	48	53	58			
11	03	08	13	18	23	28	33	38	43	48	53	58			
12	03	08	13	18	23	28	33	38	43	48	53	58			
13	03	08	13	18	23	28	33	38	43	48	53	58			
14	03	08	13	18	23	28	33	38	43	48	53	58			
15	03	08	13	18	23	28	33	38	43	48	53	58			
16	02	06	10	14	18	22	26	30	34	38	42	46	50	54	58
17	02	06	10	14	18	22	26	30	34	38	42	46	50	54	58
18	03	08	13	18	23	28	33	38	44	48	53	58			
19	03	08	11	13	19	25	31	37	43	50	56				
20	04	11	19	28	38	45	55								
21	06	18	30	42	45	53									
22	00	05													



9200 形MOMO

■広島電鉄軌道（8 路線・延べ 19.0km）

1910 年（明治 43 年）に広島電鉄の前身である広島電気軌道によって開設された。現在は鉄道・軌道事業は電車カンパニーが担当しており、軌道線 8 路線 19.0km と、鉄道線 1 路線 16.1km の総延長 35.1km の路線を運営。一日の輸送人員は約 16 万人で、軌道線と鉄道線をあわせた輸送人員・路線延長は路面電車としては日本一。軌道線と鉄道線は西広島駅で繋がっており、直通運転を行っている。広島電鉄では運行系統を 1 号線、2 号線と呼んでいる。運賃は 150 円均一。宮島線は区間制運賃。



路線別運転区間・運行間隔

系統番号	運行区間	所要時間	運行間隔
1	1 号線 広島駅～紙屋町東～広島港	43 分	10 分
2	2 号線 広島駅～紙屋町東・西～広電宮島口	64 分	7～8 分
3	3 号線 広電西広島～紙屋町西～広島港	47 分	10 分
5	5 号線 広島駅～比治山下～広島港	28 分	8 分
6	6 号線 広島駅～紙屋町東・西～江波	35 分	10 分
7	7 号線 横川駅～紙屋町西～広電本社前	24 分	12 分
8	8 号線 横川駅～土橋～江波	21 分	12 分
9	9 号線 八丁堀～白島	7 分	7 分

■伊予鉄道市内電車（4 路線・延べ 9.6km）

1888 年（明治 21 年）に四国初の鉄道として松山・三津間が開業された。現在は松山市を中心に郊外へ延びる鉄道 3 路線と市中心部を走る路面電車を運営している。路面電車は松山市駅を拠点に、松山城をグルッとまわる環状線（東回りと西回り）と、松山市の最大の観光地である道後温泉と松山市駅前、JR 松山駅前、本町六丁目を結ぶ系統で運行されている。南堀端・上一万間は全ての系統が集中するため多頻度の運行となっている。JR 松山駅前・松山市駅・道後温泉駅を相互に結ぶ路線は複線。運賃は 150 円均一。

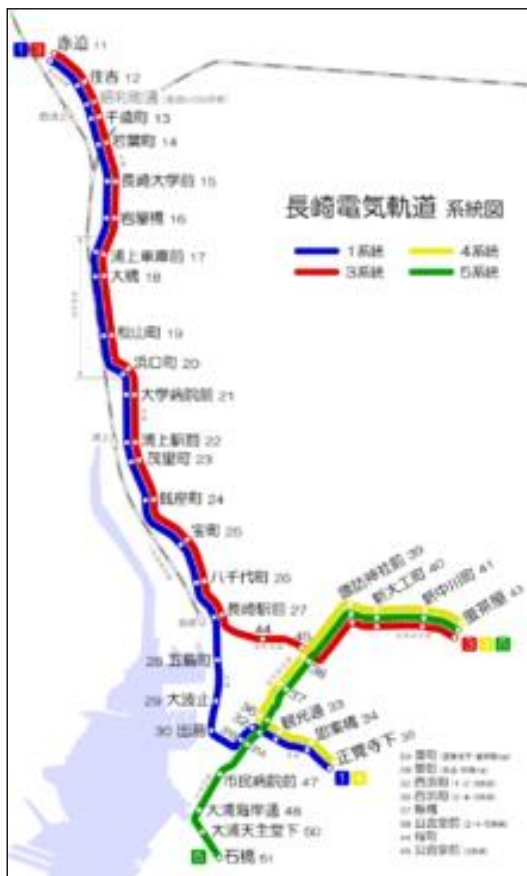
市内電車				
環状線	松山市駅 ≫ 大街道	平日	土曜	日祝
	松山市駅 ≫ JR松山駅前	平日	土曜	日祝
JR線	JR松山駅前 ≫ 道後温泉	平日	土曜	日祝
	道後温泉 ≫ JR松山駅前	平日	土曜	日祝
市駅線	松山市駅 ≫ 道後温泉	平日	土曜	日祝
	道後温泉 ≫ 松山市駅	平日	土曜	日祝
本町線	本町六 ≫ 道後温泉	平日	土曜	日祝
	道後温泉 ≫ 本町六	平日	土曜	日祝

J R 松山駅発道後温泉行き（平日）

5										
6	16	42								
7	02	08	16	25	30	35	41	48	52	55
8	01	08	15	21	29	36	44	51	59	
9	06	14	21	29	36	44	51	59		
10	06	14	21	29	36	44	51	59		
11	06	14	21	29	36	44	51	59		
12	06	14	21	29	36	44	51	59		
13	06	14	21	29	36	44	51	59		
14	06	14	21	29	36	44	51	59		
15	06	14	21	29	36	44	51	59		
16	06	14	21	29	36	44	51	59		
17	06	14	21	29	36	44	51	59		
18	06	14	21	29	44	51				
19	05	15	25	35	45	55				
20	05	15	25	35	45					
21	00	20	40							
22	00									
23										
24										

■長崎電気軌道（4 系統・延べ 11.5km）

1915 年（大正 4 年）に病院下（現大学病院前）・築町間の路面電車を開業。創業以来、社名を一度も変更していない。現在、4 系統を運営。運賃は 100 円均一。路面電車では日本一安い。広告事業としてカラー電車を運行している。カラー電車は基本広告スペースを指定し、使用できるボデーカラーにも規制を設けており、長崎の景観に配慮して全在籍車両の 40%を超えないように調整されている。<http://www.naga-den.com/koukoku/koukokuindex.html>



長崎市のメインストリートを走るパワー広告

カラー電車

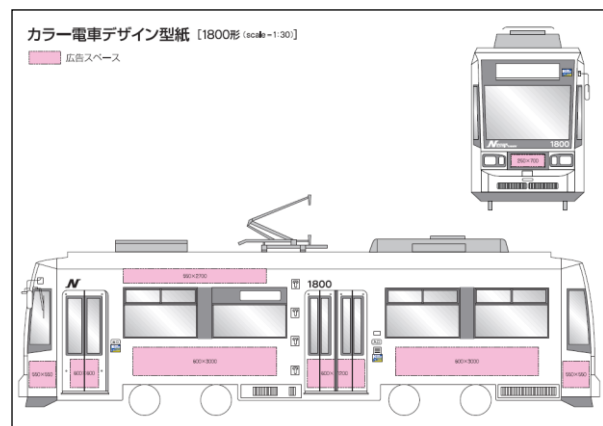
長崎市内を軽快に走るカラー電車は、高い注目率と認知度を誇る一歩先ゆく迫力ある広告です。

Aタイプ 360形・370形・500形

360形・370形

500形

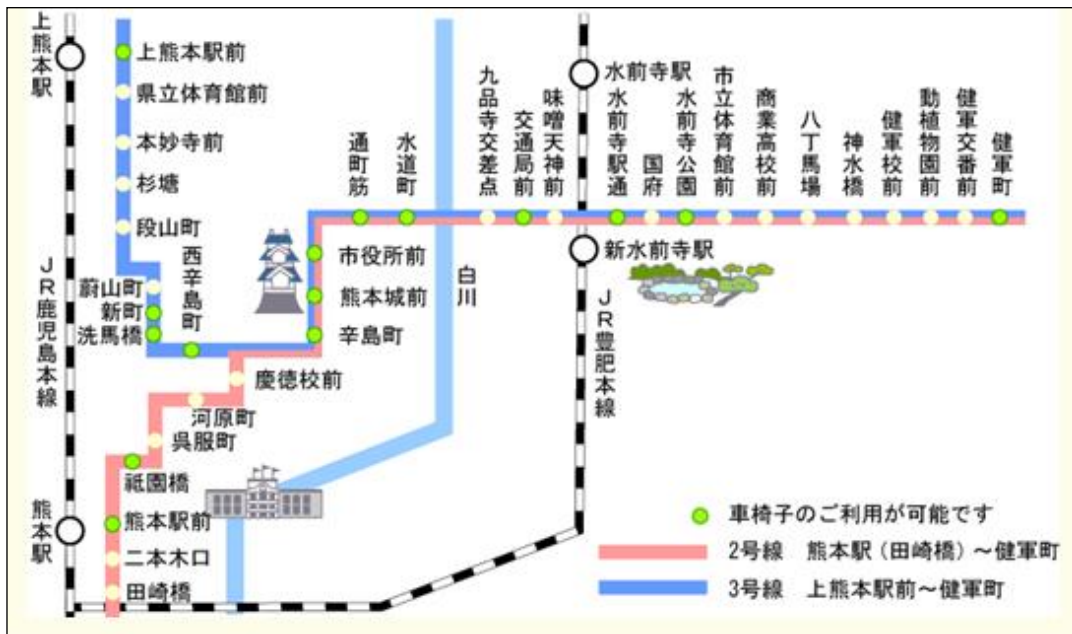
 ・昼間運行間隔		
1号系統	赤迫～正覚寺下	5分間隔
3号系統	赤迫～堂茶屋	6分間隔
4号系統	堂茶屋～正覚寺下	8分間隔
5号系統	堂茶屋～石橋	8分間隔



カラー電車デザイン型紙

■熊本市交通局（2系統・延べ11.5km）

1924年（大正13年）に熊本駅前・浄行寺町間および水前寺線水道町・水前寺間が開通した。事業者は熊本市電車部。現在は市電（路面電車）と路線バスの運営を行っている。市電は2系統あり、2号線は4分～7分間隔で運行、3号線は7分～11分間隔で運行。洗馬橋・新町間以外は併用軌道となっている。運賃は150円均一。



熊本駅前発健軍町行

行先	健軍町行
6時	25 38 50 58
7時	08 15 21 26 32低 37 41 46 51 56
8時	00 05 10 16サ 21 26 29交 33 38低 44 50 56
9時	02 08低 14 17交 20 26 32 38 44 50サ 55
10時	02 08 15低 21 27 33 39 44低 51 56
11時	03 08 15 20 27サ 32 39 44 51低 56
12時	03 08 15 20低 27 31 38 43 50 55
13時	02サ 07 14 19 26低 31 38 43 50 55低
14時	02 07 14 19 26 31 38サ 43 50 55
15時	02低 07 14 19 26 31低 38 43 50 55
16時	02 07 14サ 19 26 31 38 43低 49 54
17時	00 05 12低 17 24 29 36 41 48 53サ
18時	00 05 12 17 24低 29 36 41 48 51低水 54
19時	01 07 14 21 26交 30 39 47 55
20時	00低辛 06 14 21 29 39 46 54
21時	02 12 18水 28 40 52
22時	05 21 28交 40 53交
23時	00 20
24時	
備考	低…低床電車 サ…低床電車ですが車両の都合により一般車両となることがあります 交…交通局前止 辛…辛島町止 水…水道町止



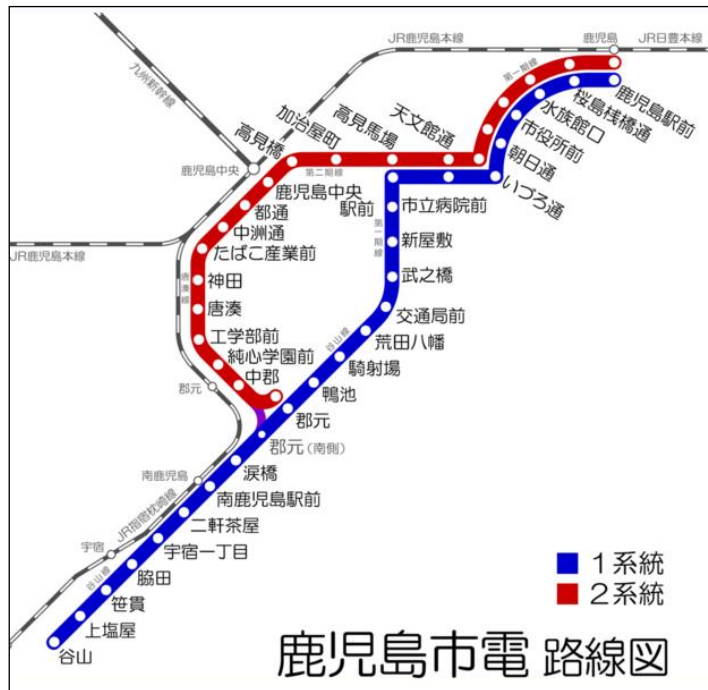
1200 形電車



日本発の超低床車 9700 形

■ 鹿児島市交通局(2 系統、延べ 13.1km)

1912 年（大正元年）鹿児島電気軌道が路面電車の運行を開始。日本最南端の路面電車。現在 2 系統が運行されており、両系統とも平均 5 分間隔で運行されている。天文館通・鹿児島駅前では 1 分間隔で運行されている時間帯もある。年間延べ約 1 千万人の利用客があり、全国の路面電車の中でも数少ない健全運営の事業体となっている。各電停にはバスロケーションシステムの表示端末が設置されており、後方 3 電停以内にいる電車の位置がわかるようになっている。運賃は 160 円均一。



鹿児島駅前電停



鹿児島市電 1000 形・2110 形

軌道緑化整備事業

2008 年 3 月までに市役所前・鹿児島駅前間 2.8 km の緑化が完成し、夜間はライトアップされている。ヒートアイランドへの対策効果が確認されたことなどから市民にも好評で、最終的には専用軌道区間（涙橋電停・谷山電停）以外を緑化をする予定。



芝生軌道（市役所前電停）

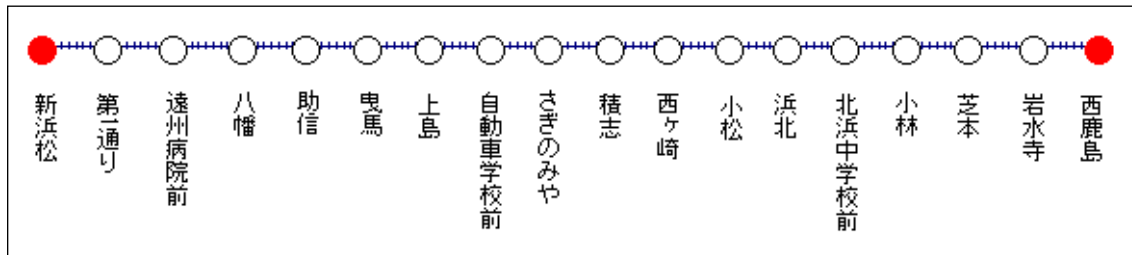
■遠州鉄道西鹿島線(1路線、17.8km)

営業キロ：17.8km、全線単線、全区間電化、新浜松・助信間は高架。

輸送人員：9,329,000人（18年度実績）、12分毎の運行。

運賃：初乗り100円、全区間460円。

ルーツ：1909年（明治42年）に大日本軌道浜松支社が板屋町（のちの遠州浜松）・鹿島間を開業。その後、遠州軌道に譲渡され、1943年に企業合併により遠州鉄道が発足。



上り（新浜松行き）					下り（西鹿島行き）				
5	30	48			5				
6	08	32	48		6	08	36		
7	00	12	24	36	7	00	12	24	36
8	00	12	24	36	8	00	12	24	36
9	00	12	24	36	9	00	12	24	36
10	00	12	24	36	10	00	12	24	36
11	00	12	24	36	11	00	12	24	36
12	00	12	24	36	12	00	12	24	36
13	00	12	24	36	13	00	12	24	36
14	00	12	24	36	14	00	12	24	36
15	00	12	24	36	15	00	12	24	36
16	00	12	24	36	16	00	12	24	36
17	00	12	24	36	17	00	12	24	36
18	00	12	24	36	18	00	12	24	36
19	00	12	24	36	19	00	12	24	36
20	00	12	24	36	20	00	12	24	36
21	00	12	36		21	00	12	24	40
22	00	20	40		22	00	20	40	
23	00				23	00	20	40	
24					24				

天浜線への乗り入れ計画

浜松市の新市建設計画で、西鹿島駅から天竜浜名湖鉄道天竜二俣駅（または西鹿島駅でスイッチバックして気賀駅）間の乗り入れ計画が打ち出されており、「要検討」ランクに位置づけられている。同区間は国鉄二俣線時代の1958年から1966年まで、遠鉄所属の気動車が乗り入れていた。浜松市では、乗り入れた場合に生じる西鹿島駅の改修・車両購入などの事業費が約34億円、年間運営費が6600万円と試算しており、必要需要量は1700人/日と試算。西鹿島駅の遠州鉄道・天竜浜名湖鉄道両社合算の利用者が3300人あまりの現状では赤字が見込まれ、乗り入れの可否・乗り入れ方法を含め再検討することとなった。（ウィキペディアフリー百科事典より）

■天竜浜名湖鉄道(1路線 67.7km)

営業キロ：67.7 k m、全線単線。電化区間なし（ディーゼル車両）。駅数 37。

輸送人員：1,624,000 人（H19 年度）。

運賃：初乗り 170 円、全区間 1,280 円。

ルーツ：軍事上の要請から、東海道本線が敵軍の攻撃により不通になった際のバイパスとして建設された。1940年に掛川・新所原間「国鉄二俣線」が全線開通した。1987年、第3セクター方式の天竜浜名湖鉄道として再スタートした。



単線かつローカル線であるため完全な等間隔運行ではないが、昼間はほぼ 1 時間に 1 本の割合で列車が運行されている。朝夕はこのほかに新所原・金指間、遠州森・掛川間に、それぞれ区間運転が行われる。

天浜線時刻表

[illegible]